

北大触媒化学研究センター

北京大にオフィス設置

海外拠点へ
企業にも開放

北海道大触媒化学研究センター(高橋保センター長)

と、中国・北京大化学学院は、相互にオフィスを開設することで合意し、センター側がまず、同学院内に設置した。大学関係者だけでなく、中国に進出する化学関連企業にも開放し、人材確保などに協力する。

高橋センター長によると、触媒化学は排ガス処理や医薬品開発などの分野で重要な役割を果たし、日本の企業は工場だけでなく、

研究部門の中国移転などを検討している。

センターは来年四月の独立行政法人化を控え、アジア、ヨーロッパ、アメリカの三か所に拠点を置く中期目標を立てており、今回のオフィス設置もその一環。昨年五月に部局間協定を結び、今月二日付でオフィスを開いた。

オフィスは同センターに留学経験がある同学院の席振峰院長の教官室内に設置された。同学院の職員が電

話応対などで協力する。同学院の札幌オフィスは今年にも北大内に開設される予定だ。

センターは今後、国内約八百の公共研究機関や民間企業の研究部門からアンケートを取り、オフィスの利用法を広く募る。九月ごろには、両大学の記念交流シンポジウム開催も計画している。

高橋センター長は「中国人研究者の雇用など、国内企業が苦勞する部分で協力

できる。アンケートの結果、我々が思いつかない利用法が出てくるかもしれない」と期待している。詳しくは同センター(☎011・706・2902)へ。